

家計管理・生活設計のツボ

第9回

子どもと電子マネー

小銭いらずでスマートに決済できる「電子マネー」が、子どもたちにとっても当たり前の存在になってきました。ただ、「見えないお金」ともいわれていて、いざ自分の子どもに使わせるとなると少し心配。——そんな保護者の方のために、子どもに電子マネーを使わせるにあたって、押さえておきたいポイントを紹介합니다。

- 👉 **ツボ1 「電子マネー=お金」であることを、しっかり認識させよう**
- 👉 **ツボ2 電子マネーを使ううえでのルールを親子で話し合い、キッチリ決めておこう**
- 👉 **ツボ3 親は使用履歴を定期的に確認。子どもには記録する習慣も身につけさせたい**

電子マネーを使う 子どもが増えている

今やすっかり日常生活に定着した感のある電子マネー。大人に限らず、小学生でも持ち歩く子どもが増えています。駅の改札で「ピヨピヨ」という音を耳にしたことはありませんか？これは、「電子マネー」を利用して小児料金で改札を通過した人がいますよ」という意味です。

電子マネーを利用すれば、券売機でいちいち切符を買う必要がなく、小児料金が自動的に適用されるほか、切符を買うより安い場合もあります。また、一部の私鉄では、子どもが電子マネーを使って改札を通過すると、親に電子メールで通知するセキュリティ・サービスも提供しています。こうしたサービスに魅力を感じて、子どもに電子マネーを持たせようかなと考える人もいることでしょう。最近では、コンビニや駅売店、自動販売機など、電子マネーを使える場所が増えています。このため、例えば、夕方から始まる塾や習い事までの間の軽食代にと、ある程度の金額をチャージ

して子どもに持たせている家庭も多いようです。

ただ、電子マネーは、大人が使う場合でもルーズな使い方がなりがち。子どもに電子マネーを使わせる場合、親はどのようなことに気をつければ良いのでしょうか。

「見えないお金」の 特質をつかむ

電子マネーを使った支払いは、お店の端末にカードをかざすだけ。「ピツ」とワンタツチで決済されてしまいます。私たちが子どものころに経験したように、自分で財布からお金を取り出して小銭を数えたり、受け取ったおつりが間違っていないか、確認する必要ありません。その一方で、財布の中身を数えるのと同じような感覚でいつでもどこでも残高を確認できるわけでもありません。電子マネーが「見えないお金」といわれるゆえんです。子どもからすると、買い物ですれば、その分お金が減っていくという実感を持つことは、なかなか難しいかもしれません。

また、現金であれば親から子どもに必要なときに必要な金

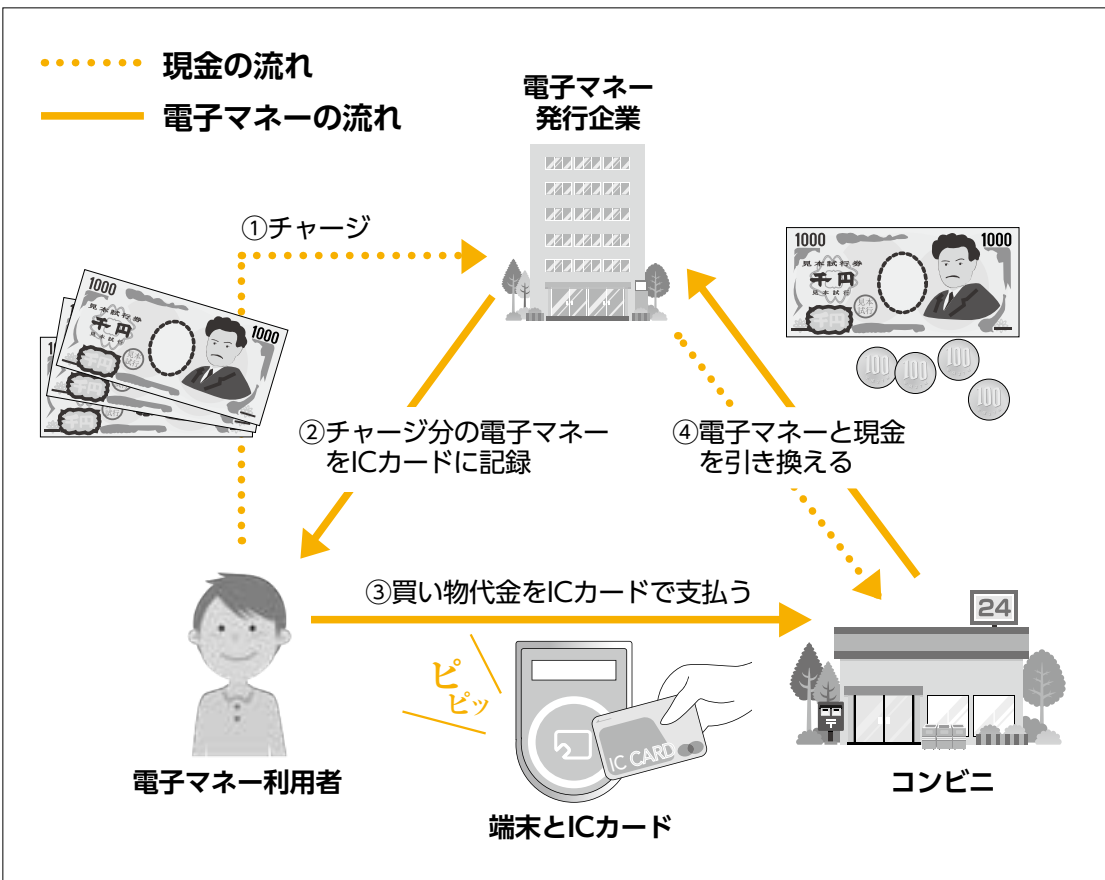
額のみを渡すことができず、プリペイド型の電子マネーの場合、そういう訳にもいきません。ある程度まとめてチャージ（入金）しなければ面倒ですし、チャージの単位（500、1,000円）との関係で、結果的に必要な額よりも多めの金額を渡すことも避けられません。

この「プラスα」で渡した部分を、親としては必要なときには使ってもよいという予備的なお金として考えてしまうので、管理は曖昧になってしまいがち。「電子マネー=お金」という実感が希薄な子どもが、この「プラスα」を使ってお菓子を買ってしまったり、友だちにジュースをおごってしまったら…ということも起きかねません。

しかし、だからといって、電子マネーを持たせるのは一切止めようとか、もう少し大きくなってからにしようとか考えるのも、やや行き過ぎという気もします。

「見えないお金」を使う時代に生きる子どもたちには、その特質をつかんだうえで、上手に使う習慣を身につけさせることが大切です。もちろん、それには親のかかわりが不可欠です。

【図表】電子マネーの仕組み（コンビニで買い物をする場合）



ルールを決めて定期的に履歴チェック

これまでみてきた電子マネーの特質を踏まえると、子どもに

電子マネーを持たせる場合に必要なのは、まず、「電子マネーお金」だとしっかり理解させること。そのためには、電子マネーの仕組みを親子で一緒に

学んでみるとよいでしょう（図表）。そのうえで、電子マネーを使う際のルール（どんな場合に使ってよいか）を親子で話し合っ

て決めておくことです。例えば、あらかじめ決めた目的以外には使わない（交通費のみ、交通費と通塾日の軽食代のみなど）といったことや、1回あたりの限度額、月々の限度額（買い物の場合は、1回100円以内、月500円以内など）を決めておく。さらに、勝手に買い物をして残金が足りなくなったら翌月分から差し引くなど、ルールを守らなかつた場合についてもあらかじめ取り決めておきたいものです。

そして、残高の確認が難しい電子マネーだからこそ、お金を管理するという習慣を身につけさせることにも気を配るべきです。この機会に、子どもにおこづかい帳のような形で使用記録をつけさせてはいかがでしょうか。

これとともに重要なことは、親が使用履歴を確認すること。最低でも月1回、できればもう少し高い頻度で定期的に確認しましょう。使用履歴は、インターネットでカードのID番号など

を入力することで確認できるほか、交通系の電子マネーの場合には、券売機で履歴を印字することもできます。子どもに印字して持って帰らせて、子どもがつけた使用記録と照らし合わせながら、一緒に確認するのも良いでしょう。

さらに進んで

いまだ少数とは思われますが、おこづかいを電子マネーの形で渡そうと考えるご家庭もあるかもしれません。この場合も、現金とは違って、残高を物理的に確認できないからこそ、おこづかい記録を作成させることが大切です。そして、何よりおこづかいを与えることの目的の一つは、お金に関する失敗から学ばせること。子どもがお金について「失敗した」と感じ取れるような運用（本当に欲しいものを買うときにお金が無いなど）が大事です。

そうした観点からは、仮に電子マネーでおこづかいを与えるとしても、オートチャージの利用や使い方を確認しないままのチャージには慎重であってほしいものです。